

金城学院幼稚園

2021年

こどもニュース

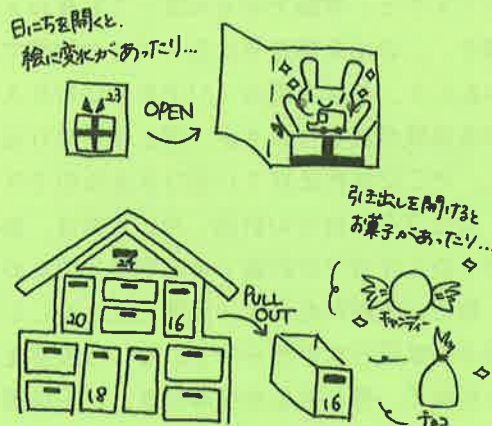
No. 13

11.18 発行



来週の水曜日から幼稚園はアドベント（待降節、クリスマスの訪れを待ち望む期間）に入ります。教会でのアドベントは、クリスマスの四週前の日曜日からとなりますので、今年は11月28日となります。幼稚園では讚美礼拝から数えて四週前で、今年は11月24日の合同礼拝からです。その礼拝では、アドベントクランツにある四本のろうソクの、一本目に明かりを灯します。一週間ずつ増えていくろうソクの明かりが全て灯る讚美礼拝の日を楽しみに待つこととなります。

アドベントカレンダーと聞くと、思い浮かべるものはどんなものでしょう？市販のものでは、24日分の日にちの書かれた窓があり、そこを開いていくというものが多いです。また、窓を開けていくと小さなお菓子があるものや、試供品サイズの化粧品が出てくるといった大人向けのアドベントカレンダーも最近ではよく目にします。



幼稚園でのアドベントカレンダーは、それらとは少し異なっています。

一人一つずつオーナメントのような飾りを作ります。そして、アドベントが始まると毎日何人かずつクラスごとで決めた位置にその飾りを飾っていきます。全員分のアドベントカレンダーが飾られると、讚美礼拝の日となります。一度に全員が飾るわけではないので、「僕の番はまだかな…」と自分の飾る順番の来る日を楽しみに待ったり、「今日やっと飾れるんだね！」と周りのお友達の飾る順番が来たことを一緒に喜んだり、とクリスマスに向かう一日いちにちを楽しみにしている姿が毎年見られます。子どもたちは、クリスマスの日を指折り数えてワクワクした気持ちで待っています。これはきっと、遠い昔ユダヤの人々が救い主であるイエス様のお生まれを待っていたころと同じ気持ちですね。

今年のアドベントカレンダーは、クラスによって現在製作中もしくはこれから作っていきます！ぜひお子さんにどんなアドベントカレンダーか聞いてみてください！

(ゆか.)

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ(た)。(マタイによる福音書 第1章23～24節)

救いとは何でしょうか。私たちは心の深いところで「救われたい」と願っているものではないでしょうか。不遇と悩み、不安と孤独、病と死から……。けれども、何から救われるかを考えるばかりで、誰が救ってくださるのか、どなたと共に歩むと救われるのか、を問題とすることはあまりないかもしれません。聖書はその部分をも語ります。「神が共におられること」「神と共に生きること」、これが救いなのだ、と。

救い。それは、単なる状況の好転や、自分の思い通りになることではないのです。人生には試練が絶えないし、すべての悩みがなくなるのは天国に帰ってからです。しかし、この地上の歩みにおいて、どんな困難があっても、神が共にいてくださることを知り、神と共に歩むのなら、何にもまさる喜びと平和があなたを満たすのです。

ヨセフは突如、救い主の父とされました。どのような思いでキリストを迎えたのでしょうか。はじめヨセフは戸惑ったはずですが、婚約中のマリアが自分の知らないところで身ごもっているのですから。常識で考えればとても受け入れがたい現実です。しかし天使の伝える神の言葉を聴き、この出来事が単に自分だけの問題ではなく、世界に対する神の特別な出来事なのだと知ったとき、彼は身重のマリアを妻に迎え入れました。そして、キリストが誕生した後も、あらゆる危険が重なりますが、妻と子を守り抜きました。神のご計画に用いられ、神と共に歩むこと。そこには代えがたい喜びがあるのです。

ヨセフをご自分の計画に用いた神は、あなたをも御計画に用いられようとしておられます。多くの人が自分の計画(自己実現)のために生きる世の中で、神の計画のために生きることは、時として理解されず、困難を覚えることもあるでしょう。神は喜んでくださっても、人々が喜ぶとは限らないからです。むしろ迫害を受けることさえあります。しかし、神のご計画に用いられて、神と共に生きるとき、どんな困難をも引き受ける力が与えられるのです。神は人を用い、真の喜びを世界に広げようとなさっておられるのですから。何より、十字架を負ってどこまでも私たちと一つになられたキリストを知ることができるのですから。そして、気づいたときには、以前の不安や悩みは、無くならなくとも小さく感じるようになっていくでしょう。神が共におられるという広い大きな喜びの中で生きるからです。

ヨセフはクリスマスの出来事を通して、神の言葉を聴き、信じ、そのとおりに行いました。そのようにして神の救いの計画は進められていきました。振り返れば、ヨセフのような誰かによって、私たちのもとにもクリスマスの喜びが伝えられたのではなかったでしょうか。神はヨセフに語りかけたように、今、あなたにも呼びかけられるのです。「わたしはあなたと共にいる」と。

聖話講師 山田詩郎(名古屋北教会牧師)





クリスマスにまつわる言葉

最近では、クリスマスに関係する様々な言葉を聞くようになりました。聞き覚えのあるものも多くなってきているのではないのでしょうか。

幼稚園では 24 日(水)の礼拝から、アドベントに入りクリスマスを待ち望み準備する季節となりました。イエス様がこの世に生まれてくださった意味を「クリスマスにまつわる言葉」を通して考えてみませんか。

アドベントクランツ

クランツは花、または葉の環状の編み物・花輪・葉環の意味です。常緑樹の枝で環(輪)を作り、ろうそくを立てたものです。

常緑樹の緑の環は「神様の永遠」を、ろうそくはキリストが「世の光」として来られる喜びを意味しています。常緑樹にはモミの木、ヒイラギ、カイズカイブキ、スギなどがよく使われます。

アドベントカレンダー

アドベントの期間、一つずつカレンダーをめくるようにし、イエス様を心に迎える準備をするものです。市販されているものは、12月1日から1日ひとつ、日にちの部分を開けていくものが多いようです。

幼稚園では、ひとり一つずつ作った飾りを毎日飾りつけていき、全員が飾り終える日が讃美礼拝の日となるようにしています。

「今日は誰が飾るのかな」「私はいつ飾るのかな」とワクワクした気持ちで「待つ」ことこそ、遠い昔ユダヤの人々が、救い主の到来を待ったのと同じような思いにつながるのではないのでしょうか。

ハレルヤ

ハレルヤとは、ヘブライ語で「主をほめたたえよ」という意味です。ヘンデルのメサイアに出てくる「ハレルヤコーラス」は、どこかで聞かれたことがありますか？

幼稚園では、讃美礼拝での一つひとつの事柄を子ども達に伝えていく時間を「ハレルヤ」と呼んでいます。それは「本当のクリスマスを知る時間」「自分に与えられたクリスマスの役割について知る時間」そして「クリスマスの喜びをありがとうと讃美する時間」と考えています。

ハレルヤが始まると「クリスマスブック」というイエス様誕生のお話を書かれたオリジナルブックをもらいます。ご家庭でも一緒に読んだり、讃美歌を歌うなどして楽しみながらクリスマスまで準備してくださいね。また幼稚園でも毎日使いますからリュックの中に入れてきてください。



年長あつまりでの様子



* 充実した運動会でした☆

運動会ではにじくみさんや年少さんへのメダル作り、係や年長スペシャル、リレーとたくさん頑張った年長さん。大勢のおうちの人から「年長さん、すごく上手だったね。ステキだったね!」とお褒めの言葉をいっぱいもらい、運動会後の年長さんは自信に満ち溢れて過ごしています!!

その自信は遊びの中でも垣間見られ、ドッジボールやどろけいを大人数で遊び、年少さんや年中さんをリードして遊ぶ姿が見られたり、いろいろなところで出店しているお店屋さんを遊戯室に集結させて「子ども達のバザーごっこをしよう!」と提案してくれたり、思い思いの遊びを仲間と共に充実させている姿がたくさん見られて嬉しいです。

* 讚美礼拝に向けて準備が始まりました!

先日のあつまりでクリスマスのお話をすると「年中さんの時は聖歌隊だったよね」と讚美礼拝のことをよく覚えていた年長さん。讚美礼拝ごっこではどの役を何回もやっていい為、ほし役の子が20人、天使が15人など気になる役をたくさんやって楽しむことができました。

その後保育者にこっそり耳打ちで希望を伝え、いよいよ配役決め。人数が多いところは聖書に書いてある通り、大事なことはくじで決めようと話す、くじを引くより同じくらいやりたい役だからそちらに変更しようとする子がいたり、くじを引いてダメだったとしてもやっぱりこの役がやりたいからくじを引こう!と考える子もいたり、それぞれが真剣に自分と向き合い、どうするべきかしっかり考え決断する姿に素晴らしいと思いました。第一希望でくじに外れた子も第二希望はみんなやりたい役に決まりました。

また役に対してマリアは女の子の役とか、ヨセフは男の子の役という考え方ではなく、固定観念に捉われず、誰がどの役をやってもいいという考え方がステキだなと思いました。

ハレルヤを通してセリフを言ったり、歌を歌ったり、ハンドベルを鳴らしたりしながら、神さまが与えてくださった自分の役を大好きになって、そして讚美礼拝では心を含めてイエスさまのお誕生をお祝いできたらと思います。

(AKi)





クリスマス献金



毎週の合同礼拝でお捧げする献金をどのように用意しているか、子ども達に聞いてみました。「献金の袋にお母さんが入れてくれるよ」「うん、僕も」そう答える子ども達に「お母さんに献金ちょうだいって言って貰ってくるのかな？」そう聞くと「そうそう」と返ってきました。

1学期に献金はどんなものか、子ども達に話しましたが、今ひとつ現実味がなかったり、分かりにくいものだったんだと知りました。そこで今回、クリスマス献金袋作りからクリスマス当日にお捧げするその日まで、子ども達と献金ってどんなもの…と機会あるごとに一緒に考えていきたいと思いました。

早速、子ども達と話したのは、嬉しい時・楽しい時ってどんな時？と。子ども達からは「ドッジで勝った時」「お団子がピカピカになってきた時」etc.たくさんの出来事が挙げられました。どれも身近なもので、生活の中にたくさんの『うれしいね』があることに気づけました。そして、この嬉しい気持ちを『ありがとう』と献金に託し、神様にお捧げしたいねと伝えました。

朝起きて健康な自分にありがとう、子ども達と笑い合っているこの時間、しあわせ♥大好きな家族や友だち…私たちは、たくさんの恵みに囲まれて生活しています。しかし日頃はその恵みになかなか気がつきません。是非、この機会にご家庭でもたくさんの嬉しい、楽しい、ありがとうを見つけてみてください。そして、その気持ちを言葉にして伝え合い、お祈りして欲しいと思います。



数年前、クリスマス献金を捧げながら「いっぱい嬉しいが入ってるよ」と言った子がいました。保護者の方に聞くと「家族の誰かが、何か出来事を話すとお祈りをして献金を入れてました」と教えてくださいました。その出来事は嬉しいことばかりではなかったようです。友だちと喧嘩したことや叱られたこともあったようで、どんなことも神様にお祈りして「ありがとう」と献金を捧げたそうです。

クリスマス献金はクリスマスの喜びを分かち合うこと、神さまからの恵みへの感謝を込めて特別に捧げられるものとして、毎年捧げてきました。さて今年は、どんな『ありがとう』が詰まった献金が捧げられるのでしょうか。

当たり前と思って過ごしている中にある、たくさんの恵み、その一つひとつに（かみさま ありがとう）とお祈りしたり、世界中で困っている人のことを思い、何か出来る事はないか一緒に考えてみたり、家族のために自分に出来るお手伝いを見つけてやってみるのもいいですね。人の役に立てた！というその喜びや感謝の気持ちを献金に託し、クリスマス献金袋に貯めておいてください。

今年のクリスマス献金袋は、BAG型です。横を糸で縫っています。「ウィビングみたいだね」と話す年長児の言葉に「えっ！ウィビング」とワクワクする年中児や年少児の姿がありました。側面はサインペンで絵を描いたり、折り紙で飾っています。

このクリスマス献金袋は、今週、持ち帰ります。



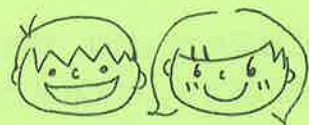
クリスマス献金は12月18日(土)、ランドルフ記念講堂での親子礼拝にお持ちください。礼拝の中でお捧げいたします。礼拝当日は受付脇に献金を入れる箱が用意されますので、そちらにお入れください。

みなでお捧げした献金が誰のために使われると良いか、どこに送るか、それは年長児との話し合いのなかで決めていきたいと思えます。送り先が決まりましたら、またお知らせいたします。





ねんしょうあつまり



～保育参加を終えて～

9月から始まった年少あつまりの保育参加にご参加頂き、ありがとうございました！「おうちの方と一緒に散歩するよ～」と伝えると、大喜びだった子どもたち♪「ぼくのママはいつくるかなあ☆」とおうちの方があつまりに来てくれることを心待ちにしていました。自分の親はもちろんのこと、お友だちのおうちの人や初めて見るおうちの人たちと一緒に、お話しながら…どんぐりを拾いながら…楽しく散歩をする事ができ、とても良い経験になりました。おうちの方たちも、保育参加を通して、様々な発見や学びがあったことだと思います。アンケートにもたくさんの感想やご意見、ありがとうございました。ここで、少しご紹介させていただきます！

…保護者の方アンケートより

どのように過ごしているか気になっていましたが、他の子らと、わいわい楽しそうにしている姿を見ることができて安心しました。

お友だちや先生方と楽しくのびのびと過ごしている様子を見ることができて良かったです。

幼稚園で一体我が子はどんな風に過ごしているんだろう…お友達と仲良くできているのかな…という想いの方、たくさんいたのではないのでしょうか。この保育参加を通して、子どもたちの関わりや普段の様子を見て頂くことができ、嬉しく思っています。親が思っている以上に、子どもたちは成長していて、お友だちと関わり合いながら、関係を深めているんですね♪

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

他のクラスよりも息子の様子を見たいなあと思っは思っていました、他の子の様子を見ると、息子にはない良い所や、いろいろな事を感じることができましたし、息子のクラスを引率していたお母様方から客観的な視点で様子を教えていただくことも良かったです。

普段、自分の子と接するのは違う客観的な接し方を体験できました。自分の子に対しては、つい情緒的に対応してしまうことが多いので、少し落ち着いて対応すること、そんなことが大切だなあと気づかされました。

先生方や、他のお母さま達の子供達への声掛けや接し方が知る事が出来、とても勉強になりました。

今回は、お子さんのクラスではない子どもたちと一緒に歩いて頂きました。その事で、寂しい想いをした子もいれば、意外と平気で楽しく歩いていた子もいましたね。まだまだおうちの

人に甘えたかったり、お友だちの事で頭がいっぱいだったり…どの姿も今の子ども達のありのままの姿です。そんな子どもたちの姿を、受け止めて感じてもらえたらなぁと思います。そして「保育参観」ではなく「保育参加」としているのは、自分のお子さんだけでなく、年少さん一人ひとりの姿や成長を知ってもらい、関わって頂く事をねらいとしているからです。自分の子ども以外のお子さんに関わる事って普段なかなかないですよ。自分の子どもとの関わりでは見えてこない部分や新しい発見、そして他の子どもに関わることを通して、自分の関わりを振り返るきっかけになったらいいなぁという想いも持っています。アンケートを通して、そのような声も多く聞く事ができ嬉しく思っています。ただ「おうちの人と歩くつもりだった」という子ども達もいた様なので、今回は内容とねらいをもう少し詳しく、事前にお伝えしますね！私たち保育者自身も、おうちの方たちの子どもを見守る温かい眼差しや、優しい声掛け、じっくりと待つ姿など、多くの事を学ばせて頂く時となりました！ありがとうございました♪

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

大学の構内にこんな自然豊かで緑にかこまれた所があって、おさんぽできるなんて、本当に恵まれた環境だなぁと思いました。

幼稚園のすぐ横に、車などの心配もなく歩けるこんなにすてきな散歩道があるなんて、ほんとうにぜひいたくだなぁって思いました！

今の世の中、なかなか気軽に園外に出てお散歩に行くことが難しい中で、この自然豊かな環境で過ごせている事に本当に感謝です。お散歩を通して、季節の移り変わりを肌で感じたり、様々な自然を目で見ながら楽しんだり、発見したり…自然の中ならではの経験をたくさんして行ってほしいと思っています。それと同時に、長い距離を歩く経験や、歩く時のルール、公共の場を歩く時に気を付ける事などもしっかりと伝えていきたいと思っています。初めは短い距離を歩く事も難しかった年少さんが、経験を積み重ねていく事で、順番に並んで歩く事や、道路を渡るときは右左を確認する事、手を挙げてわたる事などができるようになってきました！車生活が多くなった今、あまり歩く機会がないかもしれませんが、ぜひ！ご家庭でもおうちの方と手をつないでお散歩、してみてください♪今まで気が付かなかったところに目が向いたり、新しい発見や驚きがあるかもしれません☆



これからクリスマスに向かって、年少さんは新しいことを経験したり、お友だちとの関わりが深まったり、更に成長していきます！また子どもニュース等を通して、子どもたちの姿をお伝えしていきたいと思っています！！お楽しみに♪（あゆみ）